

日本二普協ニュース

No. 123
令和元年9月発行



一般社団法人
日本二輪車普及安全協会

令和元年度定時総会を開催



去る6月25日、東京都千代田区のアルカディア市ヶ谷で「令和元年度定時総会」を開催しました。総会では、平成30年度事業報告及び決算、役員を選任について審議し、いずれも承認されました。令和元年度事業計画及び予算についても、3月28日の理事会で承認された内容をご報告しました。

日本二普協は本年度「二輪車安全運転普及活動の推進」、「二輪車防犯活動の推進」、「流通業務活動の推進」、「プレゼンス向上活動の推進」、「二輪車の利便性、楽しさを訴求する活動の推進」、「モーターサイクルスポーツ普及活動の推進」、「BIKE LOVE FORUM (BLF) への参画」「広報活動の推進」「ガバナンス体制の整備と強化」、を基本施策として各種活動を積極的に推進して参ります。

引き続き、皆様のご支援ご協力をお願い致します。

◆目次◆

■令和元年度定時総会におけるご挨拶

- 伊東孝紳 日本二普協会長……………2
- 北村博文 警察庁交通局長……………3

■平成30年度事業報告の概要……………4

■令和元年度事業計画の概要……………9

■平成30年度活動優秀都府県地区表彰……………13

■定時総会後の意見交換会におけるご挨拶

- 伊東孝紳 日本二普協会長……………14
- 川瀬信昭 自工会二輪車企画部会長……………15
- 大山憲司 全安協専務理事……………16

■トピックス

- 「二輪車安全運転全国大会2019」開催結果……………17
- 【特別寄稿】二輪車安全運転全国大会2019「バイクの甲子園」を観戦して……………20
- 「第44回二輪車安全運転推進運動の実施」について……………22

「G防登録普及促進月間」の実施結果……………22

「グッドライダーミーティング」～交通事故の抑止を目指して……………23

高校生の自動二輪車等の交通安全講習会……………24

「7・8・9月はバイク月間」……………25

「8月19日はバイクの日 HAVE A BIKE DAY」を開催……………25

NEXCO「ETC搭載の二輪車限定ツーリングプラン」のお知らせ……………25

「BIKE LOVE FORUM in やまなし」開催のご案内……………26

「セーフティーライディングやまなしツーリングキャンペーン」のお知らせ……………26

二輪品質評価者講習会の開催のお知らせ……………27

陸上自衛隊東部方面隊と災害ボランティアネットワーク関東が協定を締結……………27

■参考資料

統計1：都道府県別二輪車乗車中死者数(7月末現在)……………28

統計2：グッドライダー・防犯登録(7月末現在)……………29

統計3：二輪車盗難認知及び被害回復状況(6月末現在)……………30

■役員名簿……………31

定時総会でのご挨拶

伊東 孝紳 会長



本日は、ご多忙中にもかかわらずご出席を賜り、誠にありがとうございます。また、皆様方には、平素から協会の事業運営並びに諸活動に対しまして多大なるご理解とご支援、ご協力を賜っておりますことに、この機会をお借りしまして厚くお礼を申し上げます。

昨年度の総会におきまして、収支がマイナスとなった予算と事業計画のご承認を頂き、事業を推進してまいりましたが、第2次中期業務計画の初年度でもありましたので、各部署とも各事業の実施目標に向け積極的に事業を推進するとともに、効果的、効率的な事業運営に努めてまいりましたことから、決算では収支をプラスに転じさせることができました。本年度も引き続き的確な事業運営に努めてまいりたいと考えております。

本年度は、新たな事業として、二輪車安全運転全国大会を実施することになりましたので、日本自動車工業会及び4メーカー・卸販社及び当協会で構成する大会実施に向けたワーキンググループ会議にオブザーバーとして全日本交通安全協会さんに加わっていただき、これまで培ってこられたノウハウを可能な限り移入して準備に万全を期しているところであります。

現時点において全国大会参加を表明しているのは34都道府県で、13県は不参加を表明しています。

来年度の全国大会には、本年度の不参加県も参加していただけるよう大会終了後から働きかけを進めていくことといたします。

国内二輪車市場は依然として厳しい状況が続いておりますが、二輪車が安全で快適そして便利な乗り物として、一人でも多くのユーザーが二輪車利用の輪に加わっていただけるよう、引き続き諸活動を積極的に展開してまいります。

皆様方のより一層のご支援、ご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

本日の会議では、平成30年度事業報告及び同決算、役員の選任、2019年度事業計画及び同予算について、お諮りすることとしております。

ご審議をよろしくお願い申し上げ、ご挨拶といたします。



来賓ご挨拶

警察庁 北村 博文 交通局長



ただいま御紹介いただきました、警察庁交通局長の北村でございます。日本二輪車普及安全協会の令和元年度定時総会にあたりまして、一言、御挨拶を申し上げます。

本日、御出席の皆様には、平素から警察活動各般にわたり、御理解と御協力をいただくとともに、二輪車の交通安全と防犯対策の推進に御尽力されておりますことに、この場をお借りしまして、御礼申し上げます。

また、本日、グッドライダーミーティングによる二輪車の交通安全対策とグッドライダー防犯登録制度の普及促進に多大な貢献をされた御功績により、表彰を受けられた皆様には、お祝いを申し上げます。

さて、昨年の交通事故死者数は3,532人と、警察庁が保有する昭和23年以降の統計で最少となった前年を更に下回りました。

このうち、二輪車乗車中の死者数を見ますと、過去10年間おおむね減少傾向にありますが、全交通事故死者に占める自動二輪車乗車中死者の割合が若干増加しているのが気になります。車両構造面での安全対策が四輪車と比べて容易でないことから、更なる二輪車の安全確保のためには、貴協会を始めとする関係機関・団体の皆様による安全運転啓発活動が、なお一層重要になってくると認識しております。

そのような中、本年夏には、貴協会の御尽力により、「二輪車安全運転全国大会2019」が開催されることとなりました。こうした活動を通じ、二輪車の安全運転が一層推進されることを期待しております。

警察庁におきましては、最近の二輪車を取り巻く情勢の変化に対応するため、様々な検討を進めております。

例えば、昨年6月には、関係者から強い要望のありました、AT小型限定普通二輪免許の教習時間の上限の見直しを行い、最短2日間で卒業が可能となりました。

また、AT大型自動二輪車や大型の電動自動二輪車に関し、最近の実情に即した対応が必要であると考えているところであり、現在、検討を進めているところであります。引き続き、皆様の御意見を伺いながら、二輪車が広く安全に利用されるよう、取組を進めてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

最後になりますが、貴協会の益々の御発展と、御出席の皆様方の御健勝を祈念申し上げまして、簡単ではございますが、私の挨拶とさせていただきます。



平成30年度事業報告の概要

平成30年度は、第二次中期業務計画の初年度であったことから、本部、支所共にそれぞれが掲げた目標の達成に向け各事業を積極的に推進しました。

第1 二輪車安全運転普及活動の推進

1 店頭個別安全指導活動の推進

販売店に対して、安全運転指導のポイントを記述した資料等を配布し、その積極的な活用を働き掛けました。また、二輪車安全運転指導員（以下「指導員」という。）がいない販売店に対し、指導員審査の実施情報を教示して審査を受けるよう促し、43人が審査に合格し新たに指導員資格を取得することが出来ました。4メーカー・卸販社では26人が審査に合格し、指導員資格を取得しました。

2 各種安全運転講習会の開催

(1) グッドライダーミーティングは、47都道府県で109回開催し、受講者数3,484人となりました。前年度比較では、回数で4回、受講者数で369人減少しました。これはグッドライダーミーティング最盛期の9月に北海道では震災が、中国・九州地方では台風が続けて上陸・接近する等、自然災害の影響による中止によるものが要因でした。

(2) 高校生等を対象とした安全運転講習会を積極的に開催しました。

ア バイク通学許可生徒の多い県等を実施対象県として、指導員マニュアル及び高校生用原付安全運転リーフレットを活用した高校生に対する安全運転講習会を主催、共催、協賛を含め25県190校で開催し、実技に3,200人、座学に3,080人の高校生が参加しました。

イ 一般社団法人日本自動車工業会（以下「自工会」という。）から受託した「高等学校交通安全教育振興事業」として以下の講習会を実施しました。

- 原付通学許可生徒に対する講習会を熊本県、鹿児島県、福岡県（3回）、群馬県、茨城県（3回）及び愛知県において実施し、実技427人、座学1,201人が参加しました。
- 特別取組みとして埼玉県指定校への安全講話を志木高校及び大宮東高校の2校に4回3,300人に実施しました。
- 埼玉県秩父エリア高校フォロー実技講習（生徒指導型研修会）を秩父農工科学高校の原付通学許可生徒16人に実施しました。
- 原付通学許可生徒数の多い県の生徒指導担当教諭及び自動車教習所二輪教習指導員に対し高校生に対する原付安全運転指導研修を一般財団法人日本交通安全教育普及協会に委託して、岡山県16校22人、茨城県25校25人、岩手県20校21人、高知県11校20人に対し実施しました。

(3) 埼玉県教育委員会が平成28年12月に設置した「高校生の自動二輪車等の交通安全に関する検討委員会」からの提言を取りまとめた報告書が、平成30年2月検討委員会会長から教育長に提出され、これを受けて平成30年8月から「高校生の交通安全講習実施体制検討委員会」が立ち上げられました。埼玉県支所事務局長は引き続き同委員会の委員となり埼玉県における高校生に対する交通安全教育の進め方策定に積極的に参画しました。（昨年度3回開催）なお、平成31年4月から高校生の免許取得、二輪車の乗車及び購入が可能となりました。

(4) 高齢者講習は宮城県をはじめ4都県で計8回、635人に、女性対象の安全運転講習は、東京都をはじめ9都府県で計9回、136人に対して実施しました。

(5) 地域二普協が実施する安全運転講習会に協力支援するとともに、活動実績が優良な地域二普協を表彰しました。

3 運転免許取得支援活動の推進

二輪免許取得を目指している者に対し、必要な情報を提供して運転免許取得を支援しました。

- (1) 「原付試験問題集」、「バイクと法令」等の教材頒布を行いました。
- (2) 「原付試験問題にチャレンジ」（通称：ゲンチャレ）Web サイトの訪問者数は、近年少子化の影響を受け減少傾向が続いていましたが、平成 30 年度中は 877,804 件で前年度比 111.9% となり、増加に転じました。
- (3) 「バイクと法令」「原付と安全運転」（警察庁監修）の利用促進を図りました。

4 二輪車安全運転推進運動の実施

秋の全国交通安全運動と連動し、9 月 11 日（火）から 9 月 30 日（日）までの 20 日間、関係省庁の後援と関係団体の協力、協賛を得て、全国の販売店参加の下に「二輪車安全運転推進運動」を実施しました。期間中、街頭点検指導を全国で 63 回、1,876 台に実施し、整備不良車両 138 台、改造車 1 台、無保険車 46 台に対し指導等を行いました。その他、各種安全運転講習会の開催や安全運転広報等を行いました。

5 関係機関・団体との連携活動の推進

- (1) 春と秋の年 2 回開催された一般社団法人日本自動車会議所主催の交通安全をテーマにした体験型イベント「交通安全アクション 2018」に参画し、二輪車の交通安全意識の高揚と啓発を図りました。
- (2) 第 50 回を最後に二輪車安全運転全国大会が終了となったことから、自工会及び 4 メーカー・卸販社から指名を受けた者ならびに当協会で構成するワーキンググループ会議を開催し、2019 年 8 月 3 日及び 4 日に当協会が主催して「二輪車安全運転全国大会 2019」を開催することを決定し、開催に向けて細部事項について引き続き検討しています。
- (3) 二輪車安全運転特別指導員・指導員の審査及び研修会に協力しました。中央及び地方の二輪車安全運転推進委員会が実施する審査及び研修会に講師を派遣するなど必要な協力を行いました。
- (4) 地域二普協との連携強化を図りました。地域二普協が行う安全運転講習会、街頭点検指導、イベント等を積極的に支援し、地域の交通安全活動の活性化を図りました。

6 積極的な広報活動の推進

二輪車の安全運転を呼びかけるため、より分かりやすく効果的な小冊子、ポスター、チラシ等を作成し、交通アクション、グッドライダーミーティングなどの安全普及の行事や講習の際に配布して、安全運転普及のための広報活動を行いました。

第2 二輪車防犯活動の推進

1 G 防登録の推進

- (1) G 防登録計画の策定と加入促進施策の積極的な推進を図りました。

本部は、「オートバイ事業協同組合に対し G 防登録の実施を要請する」とともに、G 防登録制度の周知徹底方策の推進、G 防登録推進用パンフレット等の作成、配布等を行い、各部署の G 防登録実施が円滑に推進出来るよう図りました。

各支所においては、卸販社の営業担当者に協力を依頼し、販売店に出向き、G 防登録実施への積極的な取り組みを働き掛けるとともに、管内の販売店の G 防登録実施に係る動向把握に努め、販売台数の割に登録件数が明らかに少ない販売店に出向き、登録率向上を強く要請し、登録件数の増加を図りました。

卸販社で構成する G 防部会を通じ、新車出荷登録率向上対策の推進を卸販社に要請するとともに、本部は毎月発出している「グッドライダー・防犯登録前年対比表」に、4 月以降当該月の 3 か月前の銘柄別都道府県別新車出荷登録率を算出表示して卸販社が出荷登録率の現況を確認・管理出来るようにするとともに、卸販社と情報共有を図りました。

オートバイ事業協同組合の G 防登録の実施については、全国オートバイ協同組合連合会との間で取りまとめた、「県ごとに話し合いを進めて実施する」（平成 27 年 6 月 2 日付）、及び「G 防登録参入に当たって

の取決め事項」(平成 29 年 4 月 3 日付)を再度、各支所に示し、各支所においてはこの取決め等に基づき県のオートバイ事業協同組合に対し、G 防登録を実施して頂くための具体的な話し合いを進め、出来る限り多くの組合傘下販売店の G 防登録実施を行うよう働き掛けました。

その他、バイク用品専門店「株 2 りんかん」において G 防登録のテストトライを 6 店舗で開始しました。

その結果、厳しい国内二輪車市場の影響から、年々減少傾向を辿っていましたが、平成 30 年度のグッドライダー・防犯登録件数は 236,268 件で、前年度比では 4,803 件、2.1%の増加となりました。しかしながら登録有効期間 7 年満期による登録削減件数が 296,167 件あったため、二輪車保有台数に占める登録率は前年の 20.3%から 20.2%に微減しており、グッドライダー・防犯登録の登録促進が依然として重要な課題となっています。

(2) G 防登録普及促進月間の効果的推進を図りました。

卸販社の協力を得て、ユーザーに G 防登録を推奨して頂き販売する全車に G 防登録が実施されるよう要請しました。

警察庁の後援を得て、全国の警察本部及び警察署に告知ポスター及びリーフレットを送付し、これを掲示及び警察官に配布して頂き、警察部内における G 防登録制度の普及促進を図りました。

その結果、G 防登録普及促進月間の G 防登録件数は 63,503 件で、前年同期比△ 2,734 件、95.9%となりました。

(3) G 防登録制度に関する広報を推進しました。

警察、関係機関・団体、販売店等の Web サイトや、広報誌のほか、二輪車関係誌紙、警察関係雑誌紙等に G 防登録制度に関する記事を投稿し、G 防登録制度が二輪車の盗難防止及び盗難被害の回復に有効であることを幅広く広報し、G 防登録制度の認知度向上を図りました。

特に三つ折りチラシを増刷し、関係機関、団体、販売店等へ配布して制度内容について理解が得られるように広報を実施しました。

各支所においては、警察本部生活安全担当課に警察部内における G 防登録制度の周知徹底について継続して依頼しています。

(4) 販売店から支所に、支所から本部に G 防登録データの速やかな送付、正確な入力を確認するなど G 防登録制度の適正な運用を図りました。

(5) G 防登録制度の推進について優秀である支所及び G 防登録実績が優良な販売店に対し表彰を行い、登録率向上に向けた意識高揚を図った。

2 二輪車盗難照会システムの利用促進

警察が保有する盗難二輪車情報の提供を受けて二輪車盗難照会システムを運用し、同システム加入者からの照会に応ずるとともに、同システムの的確な運用を図りました。また、同システムに未加入の販売店等に対しては、引き続き加入促進を図りました。

平成 30 年度末における加入店数は、3,145 店で、平成 30 年度中の照会件数は 1,264,246 件であった。

3 個人情報保護の徹底

「個人情報の管理に関する規程」の定めに従い、個人情報の適正な管理に努め、個人情報保護の徹底を図りました。なかでも、G 防登録情報の入力業務を行っている都府県地区支所については、日常的に取扱う登録情報の適正な保管・管理を徹底し、個人情報保護の万全を期しています。

第3 流通業務活動の推進

1 二輪車の駐車環境改善

(1) 二輪車の駐車環境改善の促進とユーザーの駐車場利用啓発のため、自工会等の二輪車関係団体と連携し、国土交通省や東京都など地方自治体と情報交換を行うとともに、自治体の駐車場関連条例の改正と、二輪

車駐車場整備ならびに駐車場整備助成制度の拡充を求めました。また、自治体や、駐車場関連団体、事業者などに対し「全国バイク駐車場案内サイト」への掲載依頼を行うとともに、同 Web サイト内の「バイク駐車場ここにつくって！」での要望収集に向けた広報活動を行い、1 年間に寄せられた駐車場設置要望（735 件）を集約しお届けしました。

「全国バイク駐車場案内」Web サイトに掲載している平成 30 年末の二輪車駐車場は、13,242 箇所で前年同期比 3,579 箇所の増加となり、収容台数は 179,209 台で前年同期比 11,521 台の増加となりました。また、GoogleMap のサービス改訂に伴い地図を使った位置情報の仕様を一部変更しました。なお、平成 30 年度中の訪問者数は 2,545,767 件（前年度比で 104.3%）となりました。

- (2) 二輪車通行規制区間情報 Web サイトに寄せられた一年間のご意見、ご要望（1,543 件）を区間別に集約して警察庁ならびに都道府県警察へ情報提供を行いました。

都道府県警察より、直近の二輪車通行規制区間情報の提供を受け調査を行い、二輪車通行規制区間情報 Web サイトを更新しました。

2 公正な二輪車取引の推進

- (1) 「二輪車公正競争規約」の普及の為、公取協に未加入の二輪販売店に対し会員加入促進を図りました。平成 30 年度新規入会法人数は卸販社による施策展開などもあり 474 社を数えましたが、廃業などの理由で退会が 102 社あり期首加入法人数 5,017 社に対して期末加入法人数は 5,389 社（四輪・二輪併売店含む）となり前年同期比 372 社の増加となりました。

- (2) 二輪品質評価者（品質査定士）制度の普及するために、各地のオートバイ事業協同組合と地区事務取扱所が連携し、卸販社及びオートバイ事業協同組合の認定トレーナーの協力を得て、二輪品質評価者講習会を全国で 52 回開催し更新 343 人、新規 401 人、合計 744 人が受講しました。（受講後の退会者を除く）

また、公取協にて更新対象者に対し E ラーニングシステムで 424 人が受講し、平成 30 年度の二輪品質評価者講習会受講者は 1,168 人となり、有効資格者は 154 人増加し 6,010 人になりました。

公取協会員の品質評価者在籍店率の向上を目指し卸販社と未在籍店情報を共有し、未在籍店の受講促進を図ったが、主管店の在籍店率は 69.9% から 67.4% と 2.5 ポイント減少しました。

第4 プレゼンス向上活動の推進

1 平成 30 年度 陸運関係功労者及び従事者表彰

二輪車業界の発展、活性化に役立てるため、二輪車業界に長年貢献された方を業界の代表として国土交通省が行う、陸運関係功労者及び従事者表彰の各部門で推薦した結果、大臣表彰者で 4 名。局長表彰で功労者表彰が 12 名、従事者表彰が 2 名、支局長表彰で功労者表彰が 11 名、従事者表彰 4 名の合計 33 名が受賞しました。

2 グッドライダー喚起・育成

「グッドマナー JAPAN RIDERS」公式サイトの運営を中心に、「ジャパンライダーズ宣言」を募集するなど、ライダーの安全やマナーに対する意識向上を図り、広く社会における二輪車のイメージアップを図りました。その結果、ジャパンライダーズ宣言数は累計で 8 万 5 千件（前年度 7 万 2 千件）となりました。

第5 二輪車の利便性、楽しさを訴求する活動の推進

1 バイク月間 イベントの開催

7 月 1 日から 9 月 30 日までの 3 ヶ月間のバイク月間の期間中、以下のとおり「交通安全」と「バイクの楽しさ」をテーマに、各種イベントに取り組みました。

- (1) バイクの日中央イベント「バイクの日スマイル・オン 2018」を 8 月 19 日、東京都「ベルサール秋葉原」にて自工会との共催で開催し、13,934 人が来場しました。

(2) バイク月間の主なイベント

開催日	イベント名
6月9～10日	サマーツーリングin 洞爺
7月8日	バイクにフレンドシップinさっぽろ（交通安全パレード）
8月25日	バイクのふるさと浜松交通安全宣言パレード
9月1日～2日	TOHOKU夢ツーリングin安比
9月21日	岩国警察署合同交通安全パレード
9月21日	高知警察署合同交通安全パレード
9月23日	おおさか交通安全ファミリーフェスタ
9月23日	グッドライダーin延岡（交通安全パレード）
10月13日	ジャパンライダーズ関東in123パレード

2 バイク月間 広報活動

バイク月間の広報活動として、読売新聞ならびに読売オンライン（Web）にてバイクの日にバイクのプレゼンス向上を訴求すべく、記事を掲載しました。また、ネット広告にてバイク月間サイトへ誘導し、業界・メディアと連携・協力してバイクの日及びバイク月間の社会的認知向上を図りました。

3 モーターサイクルショー

第35回大阪モーターサイクルショーを主催するとともに第46回東京モーターサイクルショーへの協力を行い、両ショーに対して団体ブースとして出展を行い協会事業の訴求活動を行ないました。

第6 モーターサイクルスポーツの普及促進

一般財団法人日本モーターサイクルスポーツ協会（MFJ）ならびに地区 MFJ との連携により、モーターサイクルスポーツの普及促進を図るため、支所事務所に地区 MFJ 事務局を置き、MFJ の各種公認・承認競技会の一部運営を行い、全般の管理（カレンダー、ランキング、主催者資格、大会申請窓口）を行いました。また、地区内の施設や公認クラブの確保を図るとともに、競技者や競技役員、指導者の養成に協力を行うなど地域に根差した活動を推進しました。

第7 BIKE LOVE FORUM (BLF) への参画

平成30年8月3日に経済産業省、地方自治体及び二輪車関係団体にて主催された第6回 BIKE LOVE FORUM in 岩手・一関に参画し、「二輪車産業政策ロードマップ」の実行施策である「グッドライダー喚起・育成」、「安全運転啓発・教育」等に取り組み状況を報告しました。

第8 広報活動の推進**1 Web サイト等による最新情報の発信**

日本二普協 Web サイト全体の訪問者数は、平成30年度4,345,503件（前年度比で102.5%）となりました。販売店への情報発信として、メール配信システムを使った全国一斉情報発信を3回、各ブロック・県単位での独自の情報発信を118回行いました。その他、郵送でポスターやチラシを送付し、諸活動の推進につなげました。

2 日本二普協ニュースの発行

日本二普協ニュースを、121号（8月）と122号（2月）の2回発行し、日本二普協の事業活動について周知を図り理解を得るため、販売店を中心に、関係機関・団体、メーカー・卸販社など全国の関係者向けに4,900部配布しました。

令和元年度事業計画の概要

第1 二輪車安全運転普及活動の推進

二輪車利用者の安全を確保し、二輪車が安全で快適、便利な乗り物としてその利用が更に広がるよう、二輪車販売店（以下「販売店」という。）、関係機関・団体と連携を図りながら次の活動を積極的に推進します。

1 店頭個別安全指導活動の推進

販売店に対して、二輪車の購入者に当該地域の交通の実情を踏まえた安全運転指導を効果的に実施してもらいます。

また、卸販売会社（以下「卸販社」という。）の営業担当者との連携を強化して二輪車安全運転指導員（以下「指導員」という。）資格の取得を促し、指導員の計画的増員を図ります。

2 各種安全運転講習会の開催

二輪車利用者の安全運転技能とマナーの向上を図るとともに、利用者相互の交流を深めるため、初心運転者や交通事故死者数の多い年齢層等を対象とした安全運転講習会を計画的かつ効果的に推進します。

- (1) グッドライダーミーティングを全国で111回開催します。
- (2) 高校生等を対象とした安全運転講習会を積極的に推進します。

一般社団法人日本自動車工業会（以下「自工会」という。）から委託を受けて「高等学校交通安全教育振興事業」を実施する。本事業の推進に当たっては、バイク通学許可生徒の多い県を選定して、高校生に対する安全運転実技の指導等を充実させていきます。

また、一般財団法人日本交通安全教育普及協会に委託し、自動車教習所教習指導員と高校教員を対象に高校生に対する安全運転講習についての研修を実施します。

さらに、日本自動車教育振興財団経由で依頼された高校生講習及び新たに県教育委員会からの依頼による高校生原付講習等を実施します。

その他、埼玉県教育委員会は、県内の高校生のバイクの免許取得を禁止していた指導要項を廃止し、バイクの免許取得や運転、購入を希望する生徒は保護者の同意を得たうえで学校に届け出る等の新指導要項が本年4月から運用することに伴い、当協会に新たな安全運転実技講習等の要請があった場合は適切に対応します。

また、三重県教育委員会における高校生安全教育検討委員会に関わるとともに本部支所連携のうえ、同委員会が所期の目的を達成出来るよう協力支援していきます。

- (3) 高齢者、女性に対する安全運転講習を実施するとともに、関係団体が実施するこれら講習等に協力支援します。
- (4) 地域二普協が実施する安全運転講習に協力支援するとともに、活動実績が優良な地域二普協を表彰します。

3 免許取得支援活動の推進

二輪免許取得を目指している者に対し、次のとおり必要な情報を提供して免許取得を支援し、安全かつ優良な運転者の育成を図ります。

4 二輪車安全運転全国大会の実施

8月3日（土）、4日（日）の両日に渡り「二輪車安全運転全国大会2019」を三重県下鈴鹿サーキット交通教育センターにおいて実施します。今年度は第1回大会であるので十分な準備と慎重な運営を図り、大会



グッドライダーミーティングチラシ

実施後は問題点の抽出と改善策の検討等を行い、来年度の実施に備えることとします。

また、本大会への出場者が選考される都道府県大会が全都道府県において実施されるよう積極的な働き掛けを行います。

5 二輪車安全運転推進運動の実施

秋の全国交通安全運動と連動し、9月11日（水）から9月30日（月）までの20日間、全国の販売店参加の下に「二輪車安全運転推進運動」を実施します。

6 関係機関・団体との連携活動の推進

関係機関・団体と緊密に連携して、各種交通安全運動や交通安全大会の後援、協力、支援を行うとともに、二輪車安全運転特別指導員の審査などに積極的に協力します。関・団体との各種の協力活動を推進します。

7 効果的広報活動の推進

二輪車の安全運転を呼びかけるためより分かりやすく効果的な小冊子、ポスター、チラシ等を作成、配布し、安全運転のための広報活動を効果的にを行います。



二輪車安全運転全国大会ポスター

第2 二輪車防犯活動の推進

グッドライダー・防犯登録（以下「G防登録」という。）及び二輪車盗難照会システムの普及促進を図り、二輪車の盗難防止と盗難二輪車の早期発見、市場流通の防止、被害回復及び二次犯罪の防止を図ります。

1 G防登録の推進

(1) G防登録の加入促進を図ります。

前年度のG防登録件数の5%増の登録件数を目指し施策を推進します。

(2) 「G防登録普及促進月間」の効果的推進を図ります。

販売店、警察本部及び警察署、その他ユーザーが出入りする関係機関・団体の掲示板等に告知ポスターの掲出及び三つ折りリーフレットを配布し、広くG防登録制度の普及を促進します。



三つ折りリーフレット

(3) G防登録制度に関する広報を強化します。

警察、関係機関・団体、販売店等のWebサイトや、広報誌のほか、二輪車関係誌紙、警察関係誌紙等にG防登録制度に関する記事掲載をお願いし、G防登録制度の認知度向上とG防登録制度が二輪車の盗難防止及び盗難被害の回復に有効であることを幅広く広報していきます。

(4) G防登録制度の適正な運用を図ります。

(5) 年間表彰の実施によるG防登録意識の高揚を図ります。

2 二輪車盗難照会システムの利用促進

警察が保有する二輪車の盗難情報の提供を受けて二輪車盗難照会システムを運用し、同システム加入者からの照会に応ずるとともに、同システムの的確な運用を図ります。また、同システムに未加入の販売店等に対しては、引き続き加入促進を図ります。

3 個人情報保護の徹底

「個人情報の管理に関する規程」の定めに従い、個人情報の適正な管理に努め、個人情報保護の徹底を図る。なかでも、G防登録情報の入力業務を行っている都府県地区支所は、日常的に取扱う登録情報の適正な保管・

管理を徹底し、個人情報保護の万全を期します。

第3 流通業務活動の推進

二輪車の利便性を高め、より走りやすく、使いやすい環境を目指すとともに、ユーザーに信頼されるバイク販売環境に寄与すべく関係機関・団体、自工会などと協力して積極的な活動を推進します。

1 二輪車の利用環境の改善

- (1) 二輪車の駐車環境改善の促進とユーザーの駐車場利用啓発を行います。

関係省庁や東京都など主要な自治体と情報交換を行うとともに、自治体の駐車関連条例の改正と駐車場整備助成制度の拡充を求める。都道府県警察に対しては一層の連携強化を求めます。

また「全国バイク駐車場案内」Webサイトを運営し、広く活用を呼びかけるとともに、駐車場利用を啓発します。

- (2) 二輪車通行規制区間の情報発信

都道府県警察にご協力頂き、二輪車通行が規制されている規制区間の現状分析を実施しユーザーと行政にとって有意義な質の高い発信をWebサイト通じて行います。

- (3) 二輪車の利用環境改善のために必要な情報収集と情報提供を行います。

二輪車駐車場では、主要自治体や関連団体、民間事業者へ駐車場設置を呼びかけるとともに二輪車ユーザーから駐車場設置要望を募集します。また「全国バイク駐車場案内」Webサイトに設置した「バイク駐車場ここにつくって!」に寄せられた要望を収集し、自治体や関連団体、民間事業者へ情報提供を行います。

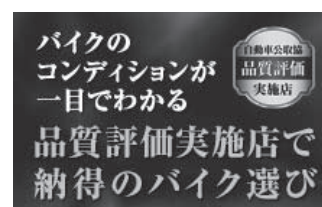
二輪車通行規制区間では、Webサイトに寄せられた要望を収集し、警察庁、都道府県警察へ情報提供を行います。

- (4) 超小型モビリティやEV自動車の普及状況、自転車対策の状況など都市交通政策、道路政策の動向に注視し、今後の二輪車の利用環境改善施策のために必要な情報収集を行います。

2 公正な二輪車取引の推進

- (1) 一般社団法人自動車公正取引協議会（以下公取協という。）へ未加入の販売店に対する入会促進を継続し、「二輪車公正競争規約」の遵守による適正表示が推進されるよう活動します。

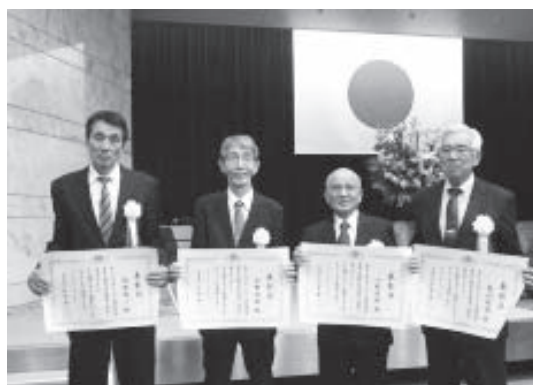
- (2) 二輪品質評価者（品質査定士）制度を普及します。



品質評価実施店

第4 プレゼンス向上活動の推進

二輪車並びに二輪販売店の社会的地位の向上を目指し活動を推進します。



自動車関係功労者国土交通大臣表彰

1 自動車関係功労者大臣表彰

国土交通省、地方運輸局に対して、自動車関係事業の販売、整備、運輸の各分野において多年精励され、功績顕著である者を計画的に選出し、表彰を申請します。

2 グッドライダー喚起・育成

グッドマナー JAPAN RIDERS 公式サイトの運営を中心にライダーの安全やマナーに対する意識の向上を図り、広く社会における二輪車のイメージアップを図ります。

第5 二輪車の利便性、楽しさを訴求する活動の推進

バイクライフの素晴らしさを、より多くの皆様にご理解いただくべく、イベントや広報活動を関係団体と協力し推進します。

1 「8月19日はバイクの日」「7月～9月はバイク月間」の訴求



- (1) 銘柄販社・業界団体一体となった「バイク月間」訴求活動を中心となって進め、更に強化します。
- (2) バイクの日中央イベントを自工会との共催にて開催します。
- (3) バイク月間（7月～9月）において、「交通安全」と「バイクの楽しさ」をテーマにしたイベントの主催、後援、協力、出展等の活動を全8ブロックとともにを行います。
- (4) 「8月19日はバイクの日」の告知訴求活動を推進します。

2 大阪モーターサイクルショーの開催と東京モーターサイクルショーへの協力

大阪モーターサイクルショーを開催するとともに東京モーターサイクルショーへの協力を行い、団体ブースに出展し協会事業の訴求活動を行います。

第6 モーターサイクルスポーツ普及活動の推進

一般財団法人日本モーターサイクルスポーツ協会（以下「MFJ」という。）並びに地区 MFJ との連携強化により、MFJ ビジョンの実現及びさらなるモーターサイクルスポーツの普及促進を図るため、支所事務所に地区 MFJ 事務局を置き、MFJ の各種公認・承認競技会の一部運営を行い全般の管理（カレンダー、ランキング、主催者資格、大会申請窓口）を行います。

また、地区内の施設や公認クラブの確保を図るとともに、競技者や競技役員、指導者の養成を行うなど、地域に根差した活動を推進します。

第7 BIKE LOVE FORUM (BLF) への参画

経済産業省並びに関係自治体、業界団体にて主催する BIKE LOVE FORUM (BLF) に参画し、協会設立の主旨に即した形で目的達成に向けた役割を担います。業界の課題解決の為「二輪車産業政策ロードマップ」の施策である「グッドライダー喚起・育成」、「安全運転啓発、教育」等に取り組みます。

第8 広報活動の推進

定期刊行物の「日本二普協ニュース」の充実と、テクノロジー進化にともない多様化する情報メディアの有効な活用を目的に、協会 Web サイトの充実とインフルエンサーを活用した新しい情報発信方法への取り組みを開始し、卸販社が販売店との間で構築している情報システムの活用などにより、グッドライダーミーティングや二輪車安全運転全国大会、全国バイク駐車場案内や二輪車通行規制区間の情報、ツーリングイベントやバイク月間など、当協会の諸活動及び二輪車に関する情報を効果的に発信し、当協会並びに二輪車利用への理解を深めるとともに、二輪車の利用促進と利用環境の改善に寄与します。

第9 ガバナンス体制の整備と強化

社会・労働環境の変化及び法改正に対応するべく協会全体のコンプライアンス並びにガバナンス体制の検証と対応について取り組みます。

平成30年度活動優秀都府県地区表彰

定時総会終了後に「平成30年度活動優秀都府県地区表彰式」が開催され、滋賀県、大分県に警察庁交通局長・生活安全局長と日本二普協会長の三者連名表彰、愛媛県、山梨県、長崎県、東京都に日本二普協会長表彰が授与されました。

●警察庁交通局長・生活安全局長と日本二普協会長の三者連名表彰



滋 賀 県



大 分 県

●日本二普協会長表彰



愛 媛 県



山 梨 県



長 崎 県



東 京 都

受賞者代表謝辞

滋賀県支所(滋賀県二普協)事務局長 八木信也

ただ今、栄えある賞を頂き誠にありがとうございます。

本日、表彰を頂きました六都県二輪車普及安全協会を代表いたしまして、お礼の言葉を申し上げます。

私どもは、日頃より、お客様の安全・安心、そして二輪車を取り巻く環境の向上に取り組んでおります。

中でもグッドライダー・防犯登録制度の推進、グッドライダーミーティングの開催につきましては、私どもの最も重要な責務として、警察本部等のご指導を頂きながら取り組んでいるところでございます。

今回賜りました栄誉にお応えするためにも、

引き続きグッドライダー・防犯登録制度の積極的な推進、グッドライダーミーティングのさらなる充実に一層努めてまいります。

また、二輪車盗難照会システムの加入促進、駐車場の整備促進や公正な取引環境の確保など二輪車ユーザーの皆様の利便性の向上にも努め、二輪車の利用者が一層増えますよう日々業務に邁進して参りますので、警察庁をはじめ、関係各位におかれましては、今まで以上のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、本日ご臨席の皆様方の益々のご健勝とご発展を祈念いたしまして、お礼の言葉とさせていただきます。

ありがとうございました。



定時総会後の意見交換会ご挨拶

会長 **伊東孝紳**



本日は警察庁交通局長の北村様をはじめ、警察庁、経済産業省、二輪車の関係団体の皆様にはご多忙中にも関わらずご出席を賜りまして誠にありがとうございます。

また先程、受賞をされました滋賀県を始め各県の皆様、本当におめでとうございます。今後の一層のご活躍をお祈りしております。

さて、二輪車市場はやはり厳しい状態が続いておりますが、少し明るい兆しも見えてきたと思っております。

と申しますのは昨年の二輪車の免許取得者、特に原付50ccはさすがに少し縮小している訳でございますが、それより上の小型、普通、それから大型、どれもその前年度を上回って取得者が増えている訳でございます。

特に先程、北村様からのご挨拶にもありましたが、AT小型限定普通二輪免許が簡単に取れるようになりました。早川課長本当にご尽力ありがとうございます。お陰様を持ちましてやはりその125cc辺りの層が二輪車の利便性、混合交通にも乗れるその性能に目覚めてきて、良いものだというふうに気がついてきていると思っております。これは我々にとっては非常に嬉しい兆しであると思っております。

そして、埼玉県もようやく高校生の免許取得を認めるようになりました。これも我々にとってはやはり嬉しいニュースでございました。当協会としても安定的に発展の道に繋がたいということで様々な活動を通じて二輪車の発展を進めて行きたいというふうに考えております。

実は私の娘も先々週大型二輪の免許を取りました。娘は子供が二人いるのですが、何で今免許を取るのかと聞いたところ、子供がいる間に仕事が休めるのでその間に免許を取っておこうということで取得したとのことでした。免許取得者が一人増えた訳でございます。

本日は日頃お忙しい皆様が一同に会します良い機会でございますので懇親会の席を設けました。

是非意見を交わして懇親を深めていただきたいと思いますと思っております。

それでは最後に本日ご出席の皆様の益々のご発展を祈念致しまして私からのご挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。



来賓代表

日本自動車工業会二輪車特別委員会

川瀬信昭二輪車企画部会長



意見交換会の開始にあたりまして、二特委員長の日高に代わりましてご挨拶申し上げます。本日ご列席の皆様におかれましては平素より自工会活動にご支援を頂きまして誠にありがとうございます。この場をお借りしまして御礼を申し上げます。また日本二輪車普及安全協会にございましては平素より交通安全に関わる様々な取り組み、あるいは既存ユーザーの皆様の利用環境の整備にご尽力頂いておりますこと重ねて御礼申し上げます。ありがとうございます。

さて、国内の二輪車のマーケットの状況につきましては皆様ご承知のことかと存じますが、若者の車離れ、あるいは若者のバイク離れという表現が使われるようになって随分の時間が経っているかと思います。

自工会ではこうした状況への取り組みの一環と致しまして加盟企業トップの方のご理解ご協力をいただきまして全国の大学に出向きまして出張授業を行うという取り組みを行いました。この取り組みを通しまして若い方へ車、オートバイへの関心の醸成、あるいは自動車産業、ものづくりこういったところの理解促進を図っていこうという事業でございます。この事業でございますがこれまでの6年間で71の講座を開設して、延べ2万5千人を超える大学生の方に聴講頂いている事業でございます。この講義をお受け頂いた学生の方に、車あるいはオートバイにどのような関心を持っているのかというアンケートを取っておりまして、そのアンケート結果の一部を今日はご紹介したいと思います。

この特別事業をお受けになった学生の約60%の学生の方が「今車を持っていないが今後購入したい」とお答えになられております。一方で今オートバイを持っていないけれども今後購入したいとお答えになられた学生は、なんと全体の18%となっております。少し質問を変えまして今オートバイを持っていない、また今後も購入する予定がない、業界からすれば若干自虐的な質問でございますけれども、この質問に対しましてはなんと全体の65%の学生の方が今後もオートバイを購入するつもりはないとお答えになられております。そのようにお答えになられた学生の方にその理由はと尋ねますと、一番多かった答えが、事故が怖い、という答えが44%、次いでそもそも二輪の免許を取るつもりはないという方が34%という状況でございました。若者の車離れを論じますときに、よく最近の若い方はスマートフォンにお金がかかっているの、なかなか免許取得であるとか車両購入までお金が周らないということが語られますけど、どうやらオートバイの場合は確かに経済的な問題はあるにせよ、安全に対する不安と言うところが大きいのではないかとというのが、このアンケートの結果から読み取ることが出来るかと思います。こういった状況を少しでも改善する為には業界としてオートバイの魅力というものを発信することに加えて、やはりこの交通安全に向けた教育の機会というものをしっかりと提供し、あるいはそういった取り組みを広く周知することでオートバイのイメージ向上、あるいは社会的なステータスの向上につながるのではないかな、と考えております。

今年は日本二輪車普及安全協会主催という形で二輪車安全運転全国大会が復活開催をされます。是非この大会が成功に終わりそしてこれが二輪車のイメージ向上、ひいては二輪車の社会的なステータスの向上につながることを祈念しておるところでございます。どうか日本二輪車普及安全協会様におかれましては、今後ますます自工会活動との活動の連携、また本日もご列席の皆様方におかれましては業界活動へのご理解ならびにご支援を引き続き頂戴したいと思います。

最後になりましたが本日もご列席の皆様方のますますのご繁栄とご健勝を祈念致しまして私の挨拶とさせていただきます。

どうもありがとうございます。

乾杯とご挨拶

二輪車安全運転推進委員会委員長
全日本交通安全協会 大山憲司専務理事

令和元年度定時総会が無事に審議終了致しましたこと、心よりお喜び申し上げます。
また、先程表彰を受けられました皆様おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

日本二輪車普及安全協会の皆様方には私ども全日本交通安全協会 二輪車安全運転推進委員会の中核メンバーとして二輪車の交通安全に取り組んでいただき、またご尽力いただいているところでありまして、この場を借りて厚く御礼を申し上げる次第でございます。

先程から話題に出ておりますが、二輪車安全運転全国大会が私どもの諸事情で第50回大会をもって終了した訳でございますが、この度日本二普協の主催で二輪車安全運転全国大会2019として復活される運びとなりました。私どももこの成功を心より祈念申し上げますと共に、これを契機に二輪車の交通安全意識が一層高まることを願っているところでございます。

日本二輪車普及安全協会のいやさかと本日ご列席の皆様方のご健勝を祈念致しまして杯をあげたいと思います。乾杯！ありがとうございました。



事業者の皆さん

10月1日から始まる消費税の**軽減税率**

政府広報 | 内閣官房・財務省・国税庁・中小企業庁

準備していただきたいことがあります。

標準税率 **10%** と、飲食料品等に係る **軽減税率 8%** について
(酒類・外食を除く)

▶ 帳簿・請求書・レシート等の
記載を税率ごとに区分する
ことが必要となります。

▶ レジや受発注システムの
導入・改修が必要になること
があります。



消費税軽減税率制度説明会

を全国で開催しています。
ぜひご参加下さい。■ 開催日時、場所については
軽減税率説明会

検索



■ レジの導入等を支援する補助金について知りたい方は

軽減税率対策補助金

検索

■ 軽減税率制度について知りたい方は

軽減税率 国税庁

検索



「二輪車安全運転全国大会2019」開催結果 令和元年8月3日(土)・4日(日) 於: 鈴鹿サーキット交通教育センター

祝 辞

二輪車安全運転全国大会2019 開催にあたり

警察庁 北 村 博 文 交通局長



昭和43年以降、平成29年まで半世紀にわたり、二輪車安全運転全国大会が毎年開催されてきました。諸事情から平成30年は、中止となりましたが、令和時代となり、今般、その伝統を受け継ぐ形で、新たに日本二輪車普及安全協会の主催により「二輪車安全運転全国大会2019」として、開催されることとなりました。

本大会が、関係者の皆様の御尽力と、多くの選手の御参加により、盛大に開催されますことを、心よりお祝い申し上げます。

さて、平成30年中の交通事故情勢につきましては、発生件数及び負傷者数は14年連続で減少し、死者数は、3,532人で昭和23年以降の統計で最少となりました。

しかしながら、昨年の自動二輪車乗車中の死者数は401人と、前年と比較して47人減少したものの、原付乗車中の死者数は212人と前年比28人の増加となっており、依然として事故情勢は厳しい状況にあります。

このような中、高校生をはじめ様々な年齢の参加者が各種競技を通じ、二輪車安全運転技能と交通マナーの向上を図る本大会は、二輪車が関係する交通事故防止に大きく寄与するものと考えております。

警察といたしましては、政府が目標とする「世界一安全な道路交通」の実現に向け、関係機関・団体等と連携し、二輪車の交通事故防止を含めた総合的な交通事故抑止対策を一層推進していくこととしております。どうか、皆様方には、御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本大会の開催に御尽力いただいた関係者の皆様に謝意を表しますとともに、関係者及び参加者の皆様の益々の御健勝と御活躍を祈念申し上げます。

開会の挨拶

大会会長

日本二輪車普及安全協会会長 伊 東 孝 紳



二輪車安全運転全国大会2019の開会にあたり一言ご挨拶を申し上げます。

まずはじめに、各都道府県の大会において優秀な成績を収められ、代表として本大会に参加された選手の皆様に、心より歓迎の意を表したいと思っております。

また、本大会の開催に当り、警察庁をはじめ地元三重県警察並びに関係機関・団体、更には二輪車業界などの皆様には、多大なるご支援・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

また、本大会出場に向けここまで選手を支えていただきました監督、コーチ、関係者の皆様には暑さ厳しき折、大変お疲れ様でした。そしてありがとうございます御座いました。心より御礼を申し上げます。

二輪車はとても有用で、利便性が高いと評価をいただいておりますが、より安全で快適な乗り物として二輪車利用の輪が更に広がっていきますよう、関係者一丸となって各種活動に取り組んで参ります。

選手の皆様はじめ、本大会ご参加の皆様にも、ぜひご理解とご協力を賜りますよう、引き続きよろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、選手の皆様のご活躍を期待するとともに、皆様方のますますのご活躍とご健勝を祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

来賓のご挨拶

大会参与
警察庁交通局

早川 智之

運転免許課長
(現：交通企画課長)

二輪車安全運転全国大会 2019 の開催にあたり、一言お祝いを申し上げます。

この度、日本二輪車普及安全協会を始めとする皆様のご尽力により、歴史ある二輪車安全運転全国大会が新たに盛大に開催されることを心からお喜び申し上げます。

また、本日御列席の皆様には、平素から二輪運転者に対する交通安全教育の推進にご尽力を賜っていることに對しまして、この機会をお借りし、改めて感謝を申し上げる次第であります。

選手の皆様は、本大会の出場、おめでとうございます。厳しい暑さの中ですが、日ごろの安全運転の成果を発揮し、優勝を目指して、本大会の目的とする二輪車の安全運転と交通マナーの向上の模範となる運転をしていたきたいを思います。

さて、令和となった本年上半期の交通情勢について申し上げますと、交通事故死者数は 1,418 人で、昭和 23 年以降、年間の死者数が最少となった前年同期と比べ、185 人下回っております。

しかし、本年に入り、高齢運転者による重大事故や、多数の幼児が被害者となる悲惨な交通事故が相次いで発生するなど、高齢運転者対策や子供の安全確保などの諸対策が大きな課題となっております。

皆様におかれましては、一人ひとりが交通ルールを守り、自分の年齢や事故情勢を踏まえた安全運転に努めていただきたいと思います。

本大会の開催にあたりご尽力をいただきました関係機関・団体の皆様方には、心から感謝の意を表しますとともに、本大会が二輪車の安全運転のための大会として、今後ますます発展するよう、今回の大会の成功を祈念しております。

結びに、選手の皆様の御無事と御健闘を重ねて祈念申し上げまして私からのお祝いのあいさつとさせていただきます。

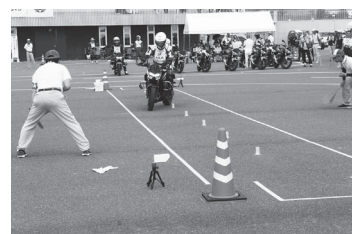
■競技風景



開会式：伊東大会会長挨拶



法規履行走行



極小バランス



応用千鳥



コーススラローム



ブレーキング



コンビスラ



早川運転免許課長から団体優勝愛媛県へ表彰状授与

■大会開催結果

1. 競技成績

●団 体

優勝 愛媛県
田井 優希
小笠原由莉
森 亮太
武田 耕青
監督 石井恵一郎



団体優勝の愛媛県

団体第2位 神奈川県
中村 優太
加藤由貴子
藤井 峰夫
佐藤 正章
監督 橋本 紳二



団体2位の神奈川県

団体第3位 京都府
多羅尾重輝
杉山 裕佳
鈴木賢一郎
上村 武志
監督 山川 直人



団体3位の京都府

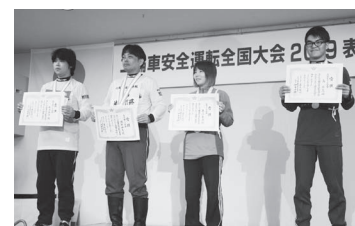
●個 人 高校生等クラス

女性クラス

優勝	奈良県	南 雅志
第2位	京都府	多羅尾重輝
第3位	愛媛県	田井 優希
優勝	徳島県	森河 美法
第2位	岡山県	山崎 知代
第3位	埼玉県	宮澤 純子
優勝	神奈川県	藤井 峰夫
第2位	長野県	金井 涼
第3位	愛媛県	森 亮太
優勝	島根県	松尾 鉄平
第2位	千葉県	日暮 道正
第3位	埼玉県	園部 昌仁

普通二輪クラス

大型二輪クラス



各クラス個人優勝者の表彰



高校生等クラス優勝の南さん
※南さんには文部科学大臣
賞も贈られたました。



女性クラス優勝の森河さん



普通二輪クラス優勝の藤井さん



大型二輪クラス優勝の松尾さん

※その他「団体成績表」及び「個人入賞成績表」は日本二普協 Web サイトでご確認ください。

2. 観客数

第1日目 約300人 第2日目 約300人 計 約600人

3. 報道関係者数

9社23人(人数は2日間の延べ人数)

4. 気象状況

			気 温	湿度	風速	風向
8月3日(土)	12:00	晴れ	32.1℃	62%	3.4	東
	15:00	晴れ	32.5℃	63%	4.3	東南東
8月4日(日)	8:00	晴れ	28.9℃	72%	1.7	東北東
	11:00	晴れ	30.1℃	66%	2.1	東北東

特別寄稿

二輪車安全運転全国大会2019 ～バイクの甲子園～を観戦して



岸田 彩美

8月3日・4日鈴鹿サーキットの交通教育センターで開催された二輪車安全運転全国大会通称バイクの甲子園を観戦しに鈴鹿サーキットまで行きました。私も選手と同じ気持ちになれるかな？と思い、バイクで行きました。想像以上に暑かったです…！でも選手は猛暑で炎天下の中、2日間の暑い熱い戦いに挑みました。まず初めに、参加した選手の皆様、各県のチームや応援団の皆様、関係者の皆様にお疲れ様でしたと伝えたいです。

実は全国大会当日を迎えるまでに千葉県代表を決める予選の様子を見学したり、山梨県代表の特練にもお邪魔させていただきました。全国大会も含め出場する選手が「バイクに乗ることが好き」「安全にバイクを運転できるようになりたい」と話す選手が多かったです。

全国大会当日、緊張感を感じるピリッとした空気も感じつつも、選手は競技を楽しむことを忘れずに取り組んでいたと思いました。私が思う注目すべきポイントは、競技に入る直前の短い時間の試

走のみでマシンの特性を理解・把握した上でいかに普段の練習の成果を出すことが出来るかです。あらゆる状況での順応性を求められるので難しいですが、どの選手もイコールコンディションですので、ここが見所であると思います。また各県チーム応援団は、選手が競技している最中に声を出して応援することや、アドバイスをすることが出来ません。元気づけたい気持ちをぐっとこらえて、選手を見守る姿に愛情を感じました。

競技が終わった後に、大粒の涙を流しながら「普段の練習の成果が出せなかった」と悔しさが溢れている選手もいました。きっとチーム応援団のことを思うと、胸がいっぱいになってしまったのだと思います。この気持ちとスキルの高い選手に感化されて、また来年の全国大会参加への意欲につながっていくのだと思いました。

各県のチーム応援団は、陰の立役者だと思います。「選手に上手くなってほしい」「自分たちが持っているもの

を次の世代に伝えたい」という情熱と「安全にバイクを運転してほしい」その気持ちでサポートをしたり、練習で教えているのです。チームの支えがあってこそ選手なのです。

大会中も、チームの応援団同士でトランシーバーを使って情報をやり取りし、迅速に選手のサポ

ートをしていたり、お揃いのオリジナルチームTシャツを着て士気を高め合うチームの応援団もありました。学生時代の部活動を思い出すような、



ベストライダーコンテスト千葉に出場していた横芝敬愛高校自動車部の皆様。教育の一環として安全運転教育やバイクの便利さを教える校風に共感しました。



山梨県の代表選手4人に対し指導する方々の方が人数多いという充実したバックアップ体制でした。代表選手・指導員の方々の笑顔が絶えず、楽しんで練習に取り組んでいる様子が印象的でした。



チーム応援団が選手を支えます。



トランシーバーを使って情報をやり取り



オリジナルのTシャツを着て士気を高め合うチーム

チームで一つの目標に向かっていくという経験は、新たな仲間との出会いもあり、貴重な経験ができるのではないかと思います。

一方、チーム応援団を除く一般の観戦者が少ないなと感じました。今回初めて全国大会を観戦して、選手の頑張っている姿には心動かされました。選手はそれぞれの想いや目標をもって参加しています。大会中では様々なドラマが生まれ、まさか私ももらい泣きしてしまうとは思いませんでした。観戦をしながら、私は安全運転出来ているかな？と選手の走りをみながら自分に置き換えてみるなど、自分自身を見直す良いきっかけになると思います。二輪車安全運転全国大会をもっとメジャーにし、全国各地から鈴鹿サーキットに集結した選手の熱い走りを観に！応援に！来てほしいと思いました。



一般の観戦者が少なかったです。選手の熱い走りを観に行きましょう。

バイクは危ない乗り物だと言われてしまうことも少なくありません。では安全に楽しくバイクに乗る為にはどうしたらいいのか…「スキル」を身につけるべきだと私は考えます。知識だけではなく、自分はどこまで出来るのか、どこが足りないのかを知っておくこと、公道を走る時のいざという時に対応できるかを試しておくことが大切だと思います。

そのスキルを得るためにお勧めしたいのが、各地で開催しているグッドライダーミーティングに参加することです。その中でもっと上手になりたい！何か目標が欲しい！そんな気持ちがあればぜひ大会に挑戦してみて欲しいです。

なぜ大会に出ようと思ったのか、選手にきっかけを聞いたところ、「以前大会に出場した人に誘われたから」という声が多数ありました。実は出場資格の敷居が低いのも魅力なのです。練習は大変だと思いますが、練習すれば練習するほど技量が上がるのがわかってやりがいがありますと言っていた選手もいました。しかしながら、今回の大会参加は34都道府県からの参加であり、実は全都道府県からの参加でなかったのが事実です。

今後に期待する事として、47都道府県全国各地からの参加が出来るといいなと思います。二輪車安全運転全国大会の事を知ってもらうこと、参加者が増えることで選手同士お互い切磋琢磨し、大会がもっと盛り上がり、それが私の願いです。そして大会に参加することで、模範となるライダーとなり、周りの人にも安全運転への意識付けが出来ると思うし、それが大会に参加する意義だと私は考えています。来年の二輪車安全運転全国大会2020、皆さんのチャレンジを期待しています！



白旗（減点なし）赤旗（減点あり）を持っている審判員がいないと成り立ちません。選手と同じ炎天下の中採点を行います。

岸田彩美さんプロフィール

チバテレビで放送中「週刊バイクTV」アシスタントとして出演するほか、二輪車安全運転指導員の資格も取得し、積極的にバイクの楽しさを伝える機会・発信をしている。

https://twitter.com/Ayami_Kishida/
<https://www.facebook.com/Ayami.Kishida.0311/>
https://www.instagram.com/ayami_kishida/

「第44回二輪車安全運転推進運動実施」について

二輪車を利用する方の安全を確保し、安全で快適な道路交通社会の実現に資するため、関係省庁の後援を得て、家庭・学校・職場・関係諸団体と連携を密にし、二輪車の交通事故防止並びに二輪車の盗難予防及び被害早期回復を図ることを目的に今年も次の通り運動を実施致します。

1 期 間

令和元年9月11日（水）から9月30日（月）までの20日間

2 運動の重点

「交通ルールの遵守・マナーアップ」を重点とした安全運転の指導

3 運動の具体的推進項目

- ①ヘルメットの正しい着用方法の指導啓発とプロテクター着用の推奨
統一標語として、

**「ヘルメット あごひも しっかり締めて（指一本が入る程度）
プロテクターで胸部を守ろう」**

- ②グッドライダーミーティングの開催

- ③店頭個別安全指導活動の推進

- ④街頭点検指導活動の推進

- ⑤本推進運動のポスター・チラシ等の掲出・配布

4 運動推進に当たっての留意事項

- ①関係各機関・団体と連携し、それぞれの特色を活かした国民総ぐるみ運動として推進する。
②本推進運動用のポスターや日本二普協のホームページの活用等のほか、各種イベント会場等における広報活動や新聞、テレビ、ラジオ等の広報媒体との連携等、SNSなど各種広報活動を積極的に推進する。



二輪車安全運転推進運動ポスター

「G防登録普及促進月間」の実施結果

今年も、二輪車販売需要の高まる4～6月に、「G防犯登録（グッドライダー・防犯登録）普及促進月間」として各卸販社及び関係する行政機関、団体及び販売店様の協力を得て、G防登録の普及促進活動を展開しました。

【結果】 月別登録件数

	4 月	5 月	6 月	計
当 年	26,710	19,007	18,410	64,127
前 年	27,158	19,053	17,978	64,189
増減数	▲ 448	▲ 46	432	▲ 62
前年比	98.4%	99.8%	102.4%	99.9%

期間中の新車のG防登録件数は42,374件で前年同期比102.5%、

中古車のG防登録件数は21,753件で前年同期比95.2%

全体でのG防登録件数は前年並みという結果で終了致しました。（前年比△62件、99.9%）

今後も、G防登録件数の向上によりお客様に安心して二輪車を保有いただける環境づくりを目指してG防登録の一層の普及促進に努めてまいりますので、引き続き皆様のご支援ご協力をお願い致します。



G防普及促進月間ポスター

「グッドライダーミーティング」～交通事故の抑止を目指して

●グッドライダーミーティング（Gミーティング）の開催

Gミーティングは、本年度全国で111回（昨年度実績109回）開催を予定しています。動員目標3,985人（同3,484人）です。このうち女性対象のレディースミーティングは12回、高齢者講習も2回を計画しております。

警察庁によると、平成30年中も自動二輪運転者による死亡の年齢は40・50代で38.7%と高い傾向が続いています。一方、平成30年度のGミーティングは40・50代の参加者が全体の7割を超えており、事故率の高い年齢層と合致しています。本年度も引き続きこの年代のライダーへのアプローチを強化することにより、事故抑止を目指してまいります。

●開催風景



山梨県立笛吹高校大型機械研修所（4月開催）



神奈川県二俣川運転免許試験場（4月開催）



愛知県運転免許試験場レディース（6月開催）

■2019年度Gミーティング県別開催計画と4月～6月末までの実績

2019年7月5日 現在

	開催 計画	動員 目標	開催 実績	中止	動員 実績	内 女性	内初 参加	指導 員数	警察 数	内白 バイ	二普 協数	安協 数		開催 計画	動員 目標	開催 実績	中止	動員 実績	内 女性	内初 参加	指導 員数	警察 数	内白 バイ	二普 協数	安協 数	
北海道	6	360	3	0	177	28	31	39	0	0	6	6	滋賀	2	70	1	0	26	5	3	7	4	3	2	1	
青森	2	55	1	0	7	0	2	3	0	0	3	2	京都	2	50	1	0	26	5	9	7	4	3	2	1	
岩手	3	90	1	0	41	3	7	13	0	0	2	3	大阪	2	70	1	0	35	16	20	5	20	20	20	20	
宮城	4	150	2	0	71	26	14	23	4	4	2	5	兵庫	5	135	1	0	27	4	13	10	4	4	1	2	
秋田	1	30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	奈良	3	70	2	0	25	7	4	9	3	2	5	1	
山形	1	30	1	0	18	1	2	15	0	0	4	7	和歌山	2	50	1	0	18	6	6	4	1	0	1	3	
福島	1	35	1	0	22	8	9	9	2	2	4	1	鳥取	2	80	1	0	42	7	9	11	4	3	2	4	
東京	5	230	2	0	89	24	29	29	7	2	3	0	島根	1	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
茨城	3	110	1	0	58	4	19	14	7	2	2	1	岡山	3	120	1	0	37	7	15	12	6	5	1	5	
栃木	2	100	1	0	81	11	33	14	5	3	2	2	広島	2	80	1	0	38	4	16	11	6	5	3	2	
群馬	2	120	1	0	57	14	24	12	10	3	2	7	山口	1	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
埼玉	5	300	2	0	159	27	28	39	26	8	4	5	徳島	1	30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
千葉	5	270	1	0	73	12	24	20	6	5	3	4	香川	1	35	1	0	31	4	9	8	6	4	4	0	
神奈川	4	130	1	0	40	7	8	22	3	3	3	1	愛媛	2	55	1	0	17	17	11	4	3	3	4	0	
新潟	2	120	1	0	29	2	4	12	9	9	2	0	高知	1	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
山梨	4	100	2	0	28	3	4	19	4	4	6	8	福岡	1	30	1	0	31	8	9	6	3	2	2	0	
長野	3	80	2	0	52	4	26	28	10	4	4	7	佐賀	2	35	1	0	20	2	4	8	1	1	2	2	
静岡	2	60	1	0	38	4	12	8	4	3	2	0	長崎	2	45	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
富山	5	150	3	0	93	8	20	19	0	0	6	3	熊本	2	40	1	0	30	2	14	6	2	1	2	1	
石川	2	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	大分	1	30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
福井	1	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	宮崎	2	40	1	0	9	2	5	6	2	0	3	2	
岐阜	1	40	1	0	40	8	18	8	2	2	3	0	鹿児島	2	50	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
愛知	3	80	2	0	51	23	18	13	9	8	4	3	沖縄	1	30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
三重	1	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	合計	111	3,985	46	0	1,636	313	479	473	177	118	121	109	
・レディース：宮城、東京、茨城、埼玉、千葉、神奈川、富山、愛知、大阪、兵庫、													計画進捗率		41%		41%									
愛媛、計12回 ・高齢者：青森、宮城 ・高校生：島根													前年進捗率		40%		47%									

高校生の自動二輪車等の交通安全講習会

●「高校生3ない運動」の方針転換にともなう「高校生の自動二輪車交通安全講習会」が埼玉県でスタート

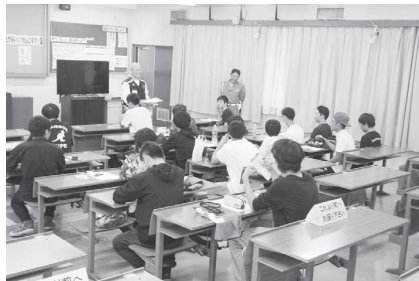
高校での「3ない運動」方針を転換した埼玉県教育委員会が主催となり、埼玉県警察、自工会、全国指定自動車教習所協会、日本二普協等が協力して「高校生の自動二輪車交通安全講習会」が埼玉県熊谷市のかごはら自動車学校で開催されました。猛暑の中、約20名の高校生が県警交通機動隊員や二推指導員から安全運転の技術と知識を学び、また同自動車学校指導員から救命講習を受講しました。

この講習は、運転免許証を保有または取得しようとする高校生が家庭での理解を得て、本講習を受けた上で各学校に届出を行うことで運転を認められるもので、正しい安全運転知識と技能を成長の早い段階でしっかりと身に着け、安全な交通社会の一員となる自覚や資質向上を図ることを目的としています。

今年度は、県内各地6ヶ所での開催が計画されています。



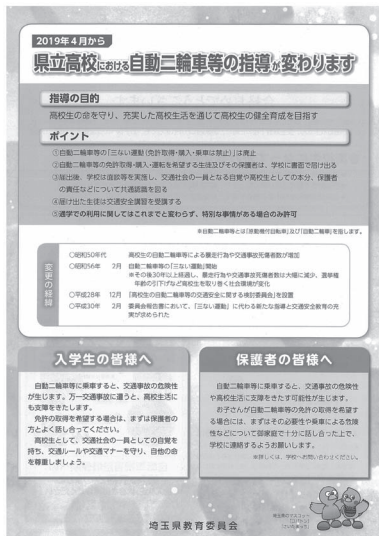
新入生向け交通安全リーフレット表



かごはら自動車学校（7月25日開催）



ファインモータースクール大宮（7月30日開催）



新入生向け交通安全リーフレット裏



秩父中央自動車学校（8月26日開催）

「7・8・9月はバイク月間」

2007年7月にスタートしたバイク月間、二輪業界関連団体では、8月19日のバイクの日を中心に「7・8・9月はバイク月間」と定め「交通安全」と「バイクの楽しさ」をテーマに様々な活動を展開してきました。また、今年はバイク月間のホームページをリニューアルし、新聞広告に変えSNSやWebでの認知向上を図るために各種広告を掲出しバイク月間の認知向上に向けて新施策を実施しています。

バイク月間に行われるイベント等は⇒<https://www.jmps.or.jp/bikegekkkan/> または **バイク月間** **検索**



『8月19日はバイクの日 HAVE A BIKE DAY』を開催

日本二輪車普及安全協会は日本自動車工業会との共催により、8月19日（月）に東京「二子玉川ライズ ガレリア広場」にて、『8月19日はバイクの日 HAVE A BIKE DAY』を開催いたしました。これは政府が二輪車の交通事故撲滅を目的として制定した「バイクの日（8月19日）」に、二輪車ユーザーをはじめ広く一般の方々へ、交通安全意識の啓発とバイクの日の社会的認知の向上を図るとともに、バイクの楽しさ・魅力を感じていただく



ために開催されているもので今年はタレントの大原優乃さんによるヘルメットのあごひも適正着用の呼びかけステージ、レイザーラモンRG氏／チュートリアル・福田氏／バッファロー吾郎・竹若氏／とろサーモン・村田氏らによるYouTube 配信：二子耐バイクトーク、警視庁・クイーンスターズによる交通安全ステージ、国内二輪4メーカーの人気車種の展示などが行なわれ、多くのファミリー層などで賑わいました。

NEXCO「ETC搭載の二輪車限定ツーリングプラン」のお知らせ

NEXCO 東日本、NEXCO 中日本、NEXCO 西日本、宮城県道路公社、京都府道路公社及び兵庫県道路公社は、ツーリング需要を喚起することにより、各地に広がる観光地やツーリングスポットの活性化、高速道路の利用促進を図ることを目的に、ETC 搭載の二輪車限定で利用出来る「ツーリングプラン」全 19 コースが 4 月 26 日（金）～11 月 30 日（土）（北海道 2 コースは 4 月 26 日（金）～10 月 31 日（木））の期間限定で発売されています。（昨年は全 13 コース）。

本プランは最大 2 日間（または 3 日間）、対象エリアの高速道路が定額で乗り降り自由となる企画割引商品です（利用次第では通常料金の半額程度となり、とってもお得なプランです）。

また、今回のプランは、昨年実施した首都圏、中京圏、関西、九州の各コースがリニューアルされたことに加え、新たに北海道で 2 コース、四国で 2 コースが用意され、各地のツーリングスポットを満喫出来る全 19 コースが設定されました。



なお、当日の天候などを踏まえ、走行直前でも申し込み・解約が可能です（キャンセル料は不要）。スマートフォンなどから NEXCO 各社の公式 Web サイトで申し込みが出来ます。

プランの詳細・申し込み方法などについては、NEXCO 各社の Web サイトをご確認ください。

ツーリングプラン申し込み時や、ツーリングに出発する前に、『グッドマナー JAPAN RIDERS 宣言（マナーアップ宣言）』をお願い致します。

安全にツーリングを楽しみましょう！

「BIKE LOVE FORUM inやまなし」開催のご案内



昨年のBIKE LOVE FORUMの様子

BIKE LOVE FORUM（略称：BLF）開催実行委員会」は来る、9月20日（金）に山梨県甲府市「ベルクラシック甲府」において、「第7回 BIKE LOVE FORUM in やまなし」を開催することを発表しました。

今年の開催テーマは『セーフティーライディングで自然を楽しもう』とし、二輪車産業の振興策についての取組状況の発表、国内二輪市場活性化策の議論などが行われます。一般の方も無料でご参加出来ますので、ぜひ会場へお越しください。

■開催概要

1. 日 時：2019年9月20日（金）13：00～17：30（受付・開場12：00～）
 2. 会 場：ベルクラシック甲府（〒400-0031 山梨県甲府市丸の内1-1-17）TEL. 055-254-1000
 3. 主 催：BIKE LOVE FORUM 開催実行委員会
 4. 内 容：開催テーマ 『セーフティーライディングで自然を楽しもう』
二輪車産業の振興策についての取組状況の発表、国内二輪市場活性化策の議論など
 5. 参加対象：BLF 主催者、報道関係者、一般の方
 - ・報道関係者の方には、受付を設けております。
 - ・一般の方もご参加いただけます。（参加無料）
- ※会場の座席数は、数に限りがございます。予めご了承ください。

「セーフティーライディングやまなしツーリングキャンペーン」のお知らせ

第7回 BLF in やまなしの開催を記念して、山梨県内をバイクでツーリングすることで、山梨の魅力・バイクの魅力を体感して頂く「セーフティーライディングやまなし ツーリングキャンペーン」（BLF 関連イベント）が実施されます。

9月20日（金）～11月30日（土）の期間に、山梨県内のおすすめスポット、定番スポットなど（観光地、飲食店、道の駅）計20ヶ所に設置されたQRコード付きのポスターでスタンプを取得し、申込可能なスタンプ数を集めて応募すると、後日抽選で山梨県の宿泊や県産品や協賛企業による豪華景品のプレゼントが当たる。という企画です。

右記をご覧の上、QRコードでエントリー頂き、どしどしご参加下さい。



二輪品質評価者講習会の開催のお知らせ

自動車公正取引協議会では公正競争規約に基づく中古二輪車の品質評価及び品質査定のさらなる普及促進を図るため、毎年、標記講習会を全国で開催しております。この度、受講される皆様の利便性の向上を図るため、今後3年以内に、これまでの「集合講習形式の講習会」から「eラーニング形式の講習会」に移行することとなりました。

【開催方法の変更のポイント】

- ① 「集合講習形式の講習会」から「eラーニング形式の講習会」に移行
▶お店のパソコン等で受講できます（新規講習・更新講習）
- ② 新規講習は約3時間、更新講習は約1時間の講習（受講は途中で中断・再開が可能）
- ③ eラーニング講習の受講料は、新規6,000円、更新4,000円

なお、本年度は、eラーニング講習の受講が難しい方への対応といたしまして、集合講習による更新講習（受講料6,000円）を全国各ブロックで1回程度開催する予定です。（※新規講習は集合講習をご選択いただけません。eラーニングによる講習のみとなります。）

各ブロックの開催日程については自動車公取協よりお送りしているご案内をご覧ください。

本件に関する詳しいお問い合わせは 一般社団法人 自動車公正取引協議会 二輪車業務部まで TEL 03-5511-2113

陸上自衛隊東部方面隊と災害ボランティアネットワーク関東が協定を締結

2019年3月18日、陸上自衛隊朝霞駐屯地広報センターにて「災害時応援に関する協定」の締結式が執り行われました。なお、陸上自衛隊と二輪業界団体間との災害時協定締結は全国初となります。この協定は、最近発生の確率が高まっていると報道される、首都圏近郊を震源とする大地震や相次ぐ自然災害に対する自衛隊の適切な災害救助派遣を行う為に、陸上自衛隊東部方面隊総監部からの依頼に基づき、災害ボランティアバイクネットワーク関東の会員様に、災害の発生時にご自宅や店舗周辺の道路の損害状況や、火災や洪水の発生状況、負傷者の発生状況などを、陸上自衛隊東部方面隊総監部にE-mailや電話で情報提供する活動を行って頂くという内容となります。

【協定名】：「陸上自衛隊東部方面隊と災害ボランティアバイクネットワーク関東との災害時応援に関する協定」

【目的】：災害時において、災害ボランティアバイクネットワーク関東の会員が周辺の被害情報を提出することによって、陸上自衛隊東部方面隊が災害状況を迅速に把握するもの

【協定内容の概要】

- (1) 災害発生時における相互協力
- (2) 訓練の実施
- (3) 情報管理
- (4) 連携地域

東京都、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、
神奈川県、新潟県、山梨県、長野県



統計 1 都道府県別二輪車乗車中死者数（7月末現在）

7月末の二輪車乗車中の死者数は、256人で前年同期比78人減。

全交通事故死者数では、1,647人で前年同期比236人減となっている。

		自二車乗車中死者数			原付車乗車中死者数			二輪車乗車中死者数			全 死 者 数		
		元年 7月末	30年 7月末	増減数	元年 7月末	30年 7月末	増減数	元年 7月末	30年 7月末	増減数	元年 7月末	30年 7月末	増減数
北 海 道		8	3	5	0	0	0	8	3	5	69	75	△ 6
東 北	青 森	1	1	0	0	0	0	1	1	0	23	23	0
	岩 手	3	1	2	0	0	0	3	1	2	28	32	△ 4
	宮 城	5	2	3	2	1	1	7	3	4	36	28	8
	秋 田	0	2	△ 2	0	0	0	0	2	△ 2	20	22	△ 2
	山 形	0	1	△ 1	0	0	0	0	1	△ 1	17	28	△ 11
	福 島	3	1	2	1	3	△ 2	4	4	0	34	40	△ 6
	計	12	8	4	3	4	△ 1	15	12	3	158	173	△ 15
関 東	東 京	11	20	△ 9	1	7	△ 6	12	27	△ 15	61	72	△ 11
	茨 城	6	3	3	3	5	△ 2	9	8	1	57	68	△ 11
	栃 木	3	6	△ 3	2	2	0	5	8	△ 3	48	51	△ 3
	群 馬	2	4	△ 2	1	1	0	3	5	△ 2	25	27	△ 2
	埼 玉	6	8	△ 2	5	6	△ 1	11	14	△ 3	68	103	△ 35
	千 葉	8	13	△ 5	4	8	△ 4	12	21	△ 9	83	101	△ 18
	神奈川	17	20	△ 3	6	7	△ 1	23	27	△ 4	78	81	△ 3
	新 潟	2	2	0	0	1	△ 1	2	3	△ 1	46	51	△ 5
	山 梨	2	3	△ 1	0	0	0	2	3	△ 1	15	22	△ 7
	長 野	4	5	△ 1	0	3	△ 3	4	8	△ 4	29	36	△ 7
計	61	84	△ 23	22	40	△ 18	83	124	△ 41	510	612	△ 102	
中 部	富 山	1	5	△ 4	1	0	1	2	5	△ 3	19	29	△ 10
	石 川	0	1	△ 1	0	0	0	0	1	△ 1	16	19	△ 3
	福 井	1	2	△ 1	0	0	0	1	2	△ 1	17	15	2
	岐 阜	1	8	△ 7	2	1	1	3	9	△ 6	46	51	△ 5
	静 岡	3	7	△ 4	5	7	△ 2	8	14	△ 6	54	59	△ 5
	愛 知	6	14	△ 8	5	11	△ 6	11	25	△ 14	76	109	△ 33
	三 重	6	5	1	4	5	△ 1	10	10	0	40	51	△ 11
計	18	42	△ 24	17	24	△ 7	35	66	△ 31	268	333	△ 65	
近 畿	滋 賀	4	0	4	2	0	2	6	0	6	37	18	19
	京 都	7	1	6	1	0	1	8	1	7	29	18	11
	大 阪	11	19	△ 8	6	8	△ 2	17	27	△ 10	70	74	△ 4
	兵 庫	4	12	△ 8	3	6	△ 3	7	18	△ 11	56	80	△ 24
	奈 良	3	1	2	3	3	0	6	4	2	18	19	△ 1
	和歌山	2	4	△ 2	1	2	△ 1	3	6	△ 3	15	18	△ 3
計	31	37	△ 6	16	19	△ 3	47	56	△ 9	225	227	△ 2	
中 国	鳥 取	1	1	0	0	1	△ 1	1	2	△ 1	15	8	7
	島 根	2	0	2	0	0	0	2	0	2	12	10	2
	岡 山	5	6	△ 1	2	2	0	7	8	△ 1	40	36	4
	広 島	6	6	0	3	3	0	9	9	0	34	60	△ 26
	山 口	2	0	2	0	1	△ 1	2	1	1	20	24	△ 4
	計	16	13	3	5	7	△ 2	21	20	1	121	138	△ 17
四 国	徳 島	2	1	1	1	0	1	3	1	2	26	15	11
	香 川	1	3	△ 2	3	2	1	4	5	△ 1	21	22	△ 1
	愛 媛	3	3	0	3	3	0	6	6	0	24	26	△ 2
	高 知	1	2	△ 1	0	0	0	1	2	△ 1	16	16	0
計	7	9	△ 2	7	5	2	14	14	0	87	79	8	
九 州	福 岡	3	6	△ 3	1	6	△ 5	4	12	△ 8	52	77	△ 25
	佐 賀	1	4	△ 3	0	0	0	1	4	△ 3	14	17	△ 3
	長 崎	2	2	0	1	3	△ 2	3	5	△ 2	16	21	△ 5
	熊 本	6	2	4	2	2	0	8	4	4	35	30	5
	大 分	2	2	0	2	1	1	4	3	1	27	18	9
	宮 崎	1	0	1	1	0	1	2	0	2	20	22	△ 2
	鹿児島	2	4	△ 2	3	1	2	5	5	0	33	35	△ 2
	沖 縄	5	5	0	1	1	0	6	6	0	12	26	△ 14
計	22	25	△ 3	11	14	△ 3	33	39	△ 6	209	246	△ 37	
合 計		175	221	△ 46	81	113	△ 32	256	334	△ 78	1,647	1,883	△ 236

統計2 グッドライダー防犯登録（7月末現在）

6月は前年同期比6.9%の減、7月は前年同期比1.4%の減となっており、1月～7月の累計では0.7%の減では前年並みに推移しているが、4月～7月の累計では2.3%の減となり、減少傾向が出てきている。

実施年月	都道府県	6月		増減	前年比	7月		増減	前年比	1月～7月累計		増減	前年比	4～7月累計		増減	前年比
		H30	R01			H30	R01			H30	R01			H30年度	R01年度		
H10/6	北海道	237	251	14	105.9	239	272	33	113.8	1,012	1,266	254	125.1	979	1,207	228	123.3
H10/1	青森県	85	124	39	145.9	92	94	2	102.2	530	546	16	103.0	466	489	23	104.9
H10/4	岩手県	85	107	22	125.9	81	83	2	102.5	470	496	26	105.5	417	413	△ 4	99.0
H9/8	宮城県	587	501	△ 86	85.3	479	481	2	100.4	3,186	3,131	△ 55	98.3	2,295	2,213	△ 82	96.4
H10/1	秋田県	44	42	△ 2	95.5	41	40	△ 1	97.6	219	237	18	108.2	195	201	6	103.1
H10/1	山形県	63	76	13	120.6	76	76	0	100.0	356	413	57	116.0	309	338	29	109.4
H10/1	福島県	81	99	18	122.2	69	70	1	101.4	458	502	44	109.6	320	367	47	114.7
東北計		945	949	4	100.4	838	844	6	100.7	5,219	5,325	106	102.0	4,002	4,021	19	100.5
H8/4	東京都	1,925	1,901	△ 24	98.8	1,957	2,007	50	102.6	12,284	12,532	248	102.0	7,982	7,991	9	100.1
H13/10	茨城県	344	344	0	100.0	389	363	△ 26	93.3	2,404	2,305	△ 99	95.9	1,546	1,495	△ 51	96.7
H9/10	栃木県	155	146	△ 9	94.2	130	162	32	124.6	880	1,022	142	116.1	573	631	58	110.1
H11/11	群馬県	203	162	△ 41	79.8	193	230	37	119.2	1,291	1,337	46	103.6	860	841	△ 19	97.8
H9/4	埼玉県	1,200	1,265	65	105.4	1,201	1,184	△ 17	98.6	7,520	7,739	219	102.9	4,896	4,785	△ 111	97.7
H10/6	千葉県	601	590	△ 11	98.2	631	643	12	101.9	4,033	4,290	257	106.4	2,590	2,618	28	101.1
H10/7	神奈川県	1,864	1,560	△ 304	83.7	1,850	1,721	△ 129	93.0	11,683	11,194	△ 489	95.8	7,434	6,858	△ 576	92.3
H8/4	新潟県	122	162	40	132.8	130	148	18	113.8	692	811	119	117.2	555	663	108	119.5
H12/4	山梨県	189	142	△ 47	75.1	209	210	1	100.5	1,609	1,488	△ 121	92.5	1,086	1,018	△ 68	93.7
H10/1	長野県	186	177	△ 9	95.2	173	146	△ 27	84.4	977	991	14	101.4	758	736	△ 22	97.1
関東計		6,789	6,449	△ 340	95.0	6,863	6,814	△ 49	99.3	43,373	43,709	336	100.8	28,280	27,636	△ 644	97.7
H12/8	静岡県	567	564	△ 3	99.5	633	530	△ 103	83.7	3,619	3,542	△ 77	97.9	2,327	2,211	△ 116	95.0
H10/7	富山県	28	30	2	107.1	35	32	△ 3	91.4	163	164	1	100.6	144	130	△ 14	90.3
H10/7	石川県	10	13	3	130.0	24	9	△ 15	37.5	119	109	△ 10	91.6	99	83	△ 16	83.8
H10/7	福井県	46	55	9	119.6	37	68	31	183.8	252	323	71	128.2	215	261	46	121.4
H14/4	岐阜県	82	42	△ 40	51.2	40	67	27	167.5	375	392	17	104.5	256	247	△ 9	96.5
H14/4	愛知県	932	853	△ 79	91.5	1,004	1,095	91	109.1	6,483	6,347	△ 136	97.9	4,144	4,076	△ 68	98.4
H10/11	三重県	232	232	0	100.0	287	245	△ 42	85.4	1,559	1,680	121	107.8	1,066	1,102	36	103.4
中部計		1,897	1,789	△ 108	94.3	2,060	2,046	△ 14	99.3	12,570	12,557	△ 13	99.9	8,251	8,110	△ 141	98.3
H10/4	滋賀県	318	236	△ 82	74.2	361	337	△ 24	93.4	2,259	2,176	△ 83	96.3	1,514	1,356	△ 158	89.6
H9/8	京都府	939	1,021	82	108.7	1,226	1,097	△ 129	89.5	7,766	7,252	△ 514	93.4	4,796	4,496	△ 300	93.7
H10/12	大阪府	2,617	2,686	69	102.6	3,452	3,341	△ 111	96.8	20,893	20,655	△ 238	98.9	12,926	12,763	△ 163	98.7
H10/11	兵庫県	954	923	△ 31	96.8	1,188	1,219	31	102.6	7,181	7,188	7	100.1	4,514	4,517	3	100.1
H10/9	奈良県	168	195	27	116.1	174	215	41	123.6	1,295	1,310	15	101.2	853	849	△ 4	99.5
H10/4	和歌山県	249	210	△ 39	84.3	288	245	△ 43	85.1	1,830	1,580	△ 250	86.3	1,161	986	△ 175	84.9
近畿計		5,245	5,271	26	100.5	6,689	6,454	△ 235	96.5	41,224	40,161	△ 1,063	97.4	25,764	24,967	△ 797	96.9
H10/12	鳥取県	42	36	△ 6	85.7	33	39	6	118.2	179	232	53	129.6	136	170	34	125.0
H10/1	島根県	103	116	13	112.6	130	113	△ 17	86.9	671	638	△ 33	95.1	462	466	4	100.9
H11/1	岡山県	527	543	16	103.0	601	542	△ 59	90.2	3,679	3,633	△ 46	98.7	2,383	2,317	△ 66	97.2
H10/4	広島県	1,594	1,452	△ 142	91.1	1,898	1,547	△ 351	81.5	10,946	10,300	△ 646	94.1	7,150	6,457	△ 693	90.3
H11/4	山口県	266	197	△ 69	74.1	249	197	△ 52	79.1	1,543	1,486	△ 57	96.3	939	981	42	104.5
中国計		2,532	2,344	△ 188	92.6	2,911	2,438	△ 473	83.8	17,018	16,289	△ 729	95.7	11,070	10,391	△ 679	93.9
H11/1	徳島県	79	47	△ 32	59.5	54	72	18	133.3	442	441	△ 1	99.8	246	284	38	115.4
H10/9	香川県	203	98	△ 105	48.3	140	185	45	132.1	1,098	1,008	△ 90	91.8	705	655	△ 50	92.9
H12/4	愛媛県	1,334	609	△ 725	45.7	759	1,127	368	148.5	6,110	5,905	△ 205	96.6	3,872	3,667	△ 205	94.7
H10/11	高知県	260	128	△ 132	49.2	136	185	49	136.0	1,237	1,276	39	103.2	826	801	△ 25	97.0
四国計		1,876	882	△ 994	47.0	1,089	1,569	480	144.1	8,887	8,630	△ 257	97.1	5,649	5,407	△ 242	95.7
H10/4	福岡県	437	577	140	132.0	540	525	△ 15	97.2	3,219	3,485	266	108.3	2,084	2,200	116	105.6
H10/11	佐賀県	12	14	2	116.7	21	7	△ 14	33.3	101	89	△ 12	88.1	72	55	△ 17	76.4
H10/4	長崎県	60	75	15	125.0	64	91	27	142.2	456	590	134	129.4	300	354	54	118.0
H10/5	熊本県	272	287	15	105.5	342	284	△ 58	83.0	2,283	2,162	△ 121	94.7	1,424	1,360	△ 64	95.5
H10/10	大分県	107	131	24	122.4	107	125	18	116.8	689	845	156	122.6	476	538	62	113.0
H10/9	宮崎県	102	82	△ 20	80.4	77	82	5	106.5	586	583	△ 3	99.5	403	349	△ 54	86.6
H8/4	鹿児島県	118	107	△ 11	90.7	135	148	13	109.6	1,033	992	△ 41	96.0	601	585	△ 16	97.3
H10/10	沖縄県	196	171	△ 25	87.2	267	240	△ 27	89.9	1,676	1,633	△ 43	97.4	914	1,014	100	110.9
九州計		1,304	1,444	140	110.7	1,553	1,502	△ 51	96.7	10,043	10,379	336	103.3	6,274	6,455	181	102.9
全国計		20,825	19,379	△ 1,446	93.1	22,242	21,939	△ 303	98.6	139,346	138,316	△ 1,030	99.3	90,269	88,194	△ 2,075	97.7

統計3 二輪車盗難認知及び被害回復状況（6月末現在）

前年同期間の比較では盗難認知件数が2,068件（26.2%）減、被害回復率は39.6%（0.4ポイント増）となっている。

都道府県	G防普及率 令和元年6月	平成29年			平成30年		
		盗難認知	被害回復	回復率	盗難認知	被害回復	回復率
北海道	4.7	124	73	58.9	65	23	35.4
青森県	10.9	5	3	60.0	3	1	33.3
岩手県	7.5	7	7	100.0	8	6	75.0
宮城県	29.5	172	89	51.7	82	31	37.8
秋田県	5.5	0	0	0.0	0	0	0.0
山形県	8.0	9	3	33.3	7	5	71.4
福島県	6.3	52	38	73.1	41	16	39.0
東北計	13.9	245	140	57.1	141	59	41.8
東京都	21.8	1,731	675	39.0	1,515	531	35.0
茨城県	13.7	366	62	16.9	250	45	18.0
栃木県	7.9	135	22	16.3	86	17	19.8
群馬県	10.6	110	36	32.7	86	17	19.8
埼玉県	21.5	1,446	276	19.1	1,203	246	20.4
千葉県	14.5	1,228	498	40.6	1,066	350	32.8
神奈川県	19.4	2,728	1,315	48.2	2,062	1,037	50.3
新潟県	5.8	76	21	27.6	29	19	65.5
山梨県	27.5	266	95	35.7	181	74	40.9
長野県	9.6	43	45	104.7	40	12	30.0
関東計	17.7	8,129	3,045	37.5	6,518	2,348	36.0
静岡県	13.4	473	250	52.9	375	179	47.7
富山県	7.4	17	14	82.4	7	8	114.3
石川県	4.9	20	7	35.0	15	10	66.7
福井県	11.5	17	21	123.5	10	3	30.0
岐阜県	5.7	129	90	69.8	82	54	65.9
愛知県	18.6	1,228	293	23.9	711	200	28.1
三重県	15.5	252	127	50.4	212	75	35.4
中部計	14.3	2,136	802	37.5	1,412	529	37.5
滋賀県	29.7	167	50	29.9	124	30	24.2
京都府	31.2	702	360	51.3	615	243	39.5
大阪府	34.9	3,431	1,234	36.0	2,916	1,120	38.4
兵庫県	21.0	1,756	679	38.7	1,111	454	40.9
奈良県	11.0	269	103	38.3	157	60	38.2
和歌山県	18.3	136	55	40.4	103	47	45.6
近畿計	27.6	6,461	2,481	38.4	5,026	1,954	38.9
鳥取県	15.0	16	14	87.5	7	2	28.6
島根県	29.2	11	14	127.3	3	1	33.3
岡山県	36.2	269	119	44.2	170	101	59.4
広島県	58.2	293	187	63.8	161	127	78.9
山口県	28.9	73	28	38.4	25	19	76.0
中国計	44.6	662	362	54.7	366	250	68.3
徳島県	11.8	51	33	64.7	19	14	73.7
香川県	13.4	110	41	37.3	62	38	61.3
愛媛県	44.5	140	55	39.3	161	53	32.9
高知県	20.5	69	56	81.2	54	33	61.1
四国計	27.7	370	185	50.0	296	138	46.6
福岡県	12.7	1,132	744	65.7	932	544	58.4
佐賀県	2.1	72	37	51.4	26	17	65.4
長崎県	4.9	70	42	60.0	33	17	51.5
熊本県	19.6	129	93	72.1	50	49	98.0
大分県	12.2	44	19	43.2	64	31	48.4
宮崎県	10.8	69	46	66.7	42	27	64.3
鹿児島県	11.3	118	85	72.0	89	60	67.4
沖縄県	15.6	425	341	80.2	232	127	54.7
九州計	12.3	2,059	1,407	68.3	1,468	872	59.4
全国計	20.5	20,186	8,495	42.1	15,292	6,173	40.4

(注) G-防普及率

II

<H29対H30比較>

令和元年6月末

G防有効累計件数

H30年4月保有台数

① 盗難認知件数

-4,894

-24.2%

・前年同期間比較

① 認知件数

-2,068

-26.2%

② 認知件数の増減（県の数）

③ 回復率の増減（県の数）

	県数
認知増県数	8
認知減県数	34
計	42

	県数
回復率ダウン	27
回復率アップ	19
計	46

一般社団法人日本二輪車普及安全協会 役員名簿

敬称略・順不同

役 職	氏 名	現所属企業（団体）	勤 務
会 長	伊東 孝紳	本田技研工業 株式会社	非常勤
専務理事	林田 武人	一般社団法人 日本二輪車普及安全協会	常 勤
常務理事	太田 昭雄	一般社団法人 日本二輪車普及安全協会	常 勤
理 事	加藤 千明	株式会社 ホンダモーターサイクルジャパン	非常勤
理 事	石井 謙司	ヤマハ発動機販売 株式会社	非常勤
理 事	濱本 英信	株式会社 スズキ二輪	非常勤
理 事	寺西 猛	株式会社 カワサキモータースジャパン	非常勤
理 事	赤坂 正人	株式会社 ホンダモーターサイクルジャパン	非常勤
理 事	宮本 義信	ヤマハ発動機販売 株式会社	非常勤
理 事	池本 憲治	株式会社 スズキ二輪	非常勤
理 事	小岩井 彰	株式会社 カワサキモータースジャパン	非常勤
理 事	小竹 忠	一般社団法人 日本自動車工業会	非常勤
理 事	徳 永 泉	一般社団法人 全国軽自動車協会連合会	非常勤
理 事	大山 憲司	一般財団法人 全日本交通安全協会	非常勤
理 事	田中 法昌	公益財団法人 全国防犯協会連合会	非常勤
理 事	藤井 龍光	一般社団法人 日本二輪車普及安全協会	常 勤
* 理 事	吉田 誠	一般社団法人 日本二輪車普及安全協会	常 勤

役 職	氏 名	現所属企業（団体）	勤 務
* 監 事	三原 大樹	本田技研工業 株式会社	非常勤
監 事	黒田 久次	ヤマハ発動機 株式会社	非常勤
監 事	小久保慎一	スズキ 株式会社	非常勤
* 監 事	小林 直人	川崎重工業 株式会社	非常勤

* 新役員

令和元年6月30日現在（理事17名、監事4名）

編集・発行

〒170-0005

東京都豊島区南大塚2-25-15 South 新大塚ビル7F

TEL : 03-6902-8190 FAX : 03-6902-8195

ホームページ : <http://www.jmpsa.or.jp>

一般社団法人 日本二輪車普及安全協会
